食を起点にした多世代・多文化の居場所作り

誰もがいきいきと暮らせる社会の実現

ＮＰＯ法人　緑と水の連絡会議

２０２０年３月９日　事業報告会

Ⅰ.今回の事業で解決したい地域課題

地域課題

- 若者を中心とした、全ての世代に居場所（サードプレイス）が足りない。
- 多世代・多文化が出会う場所や機会が少ない。

Ⅱ.地域課題を解決するための取り組み

①.青少年カフェ＋（プラス）

・９月と３月の国際ワークキャンプに合わせて多文化交流と学びの場を作る。

・ゆきみーるの若者、大田JOいんつ♪、大田高校や邇摩高校の生徒からも学びのニーズを汲み取る。

①.青少年カフェ＋（プラス）

○２０１９年９月２１日（土）に開催。
10代４人、20代４人、30代３人、40代１人、スタッフ6人、ワーキャン10人

○２０２０年３月　８日（日）に開催。
ワークキャンプ中止、コロナ対策により小規模にして開催（予定）

寸劇：外国人旅行者の日本でのエピソード

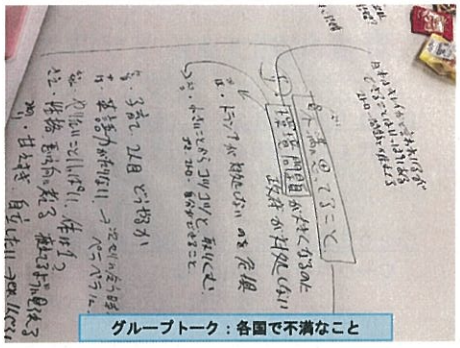
チリ、アメリカ、フランス、ベトナム、

パーティーについての高校生からの質問

グループトーク：フランス×日本

グループトーク：チリ×ブラジル×日本

グループトーク：アニメから結婚観まで



グループトーク：各国で不満なこと

①.青少年カフェ＋（プラス）

- 大田の中高校生は外国人との交流自体が目的。深める段階ではなさそう。
- 高校魅力化コーディネーターとの繋がりと広がり。今後は正規ルートも開拓。
- 公民館青少年団体とは具体的成果のある連携が必要。
- 中長期滞在国際ボラを軸に、在住外国人なども繋げて今後も交流を継続する。支出を最小限に抑えられる。

②.居場所シンポジウム

- 居場所に関わる団体や個人が学び、出会う場を作る。
- 特に子どもや若者といった当事者の目線を大切にすることを考える機会にする。
- 基調講演、事例発表、質疑応答

②.居場所シンポジウム

○２０２０年１月２５日（土）に開催

・基調講演　日本大学　末冨先生

「自立させすぎる地域と教育で大丈夫？
～学校と居場所から子ども・若者の貧困を考える～」

・事例発表　大田市立病院産婦人科医
おおだ子ども食堂

・座談会　上記メンバーに加えて
大田市教委、ゆきみーる

参加希望者の声からキッズスペース設置

キッズスペース大活躍！！！

参加者予想４０弱⇒実際７４（子ども１１）

カフェも準備して、ストーブガードも

子どもが自由に動き回るのが自然な会場

座談会は会場からの質問に答えながら

②.居場所シンポジウム

- 自立≒自己責任≒新自由主義からの脱却の狼煙
  ⇒自分はダメじゃない、自分のせいじゃないと気付くところから。社会のせいだと気付く。
- タイトル戦略の勝利と中身の濃さ。
  ⇒タイトルに惹かれた。座談会は期待していなかったのに濃かった。（アンケートより）
- てごホーム（学習支援）の大学生との出会い。
  ⇒チラシにあった「持ってくるもの・やる気」を削除。その後も交流。

②.居場所シンポジウム

- 当事者参加型、参画型のススメ。
  ⇒SNSでの提案により、子どもがいる研修会。
- 次年度は特に保護者ターゲット。
- 島根県青少年家庭課（県民会議）事業とのリンクと居場所ネットワーク作り。
  ⇒単独予算でなく合わせ技で継続を。
- 学校内居場所カフェ発足の種まき。
  ⇒高校コーディネーターから相談アリ。

短期的に

- 様々な居場所の取組を知る機会
- めざす居場所の理念について共通認識

長期的に

関係者以外の人も巻き込んで

- 他団体のフォーラム等とのコラボ
- 各団体の得意分野や技の見本市
- 若者と大人の意見交換の場として発展
- 若者の施策提言の場としての発展

③.ゆきみーるカフェ

- 誰でも参加できる無料のカフェを月１回開催する。
- 雑談やテーマトークの中で様々なニーズを汲み取り、個別支援につなげたり、各種事業に活かしたりする。

毎月第２水曜　１５時～１７時開催

ちょっと高級なカフェが無料で飲める！

菓子が集まる、作る、買ってくる

国際交流員や国際ボランティアとの交流も

やりたいことをできる場でもある

バレンタインバージョン

歓迎会だったり、漫画読んだり、面接帰りだったり

③.ゆきみーるカフェ

- 小規模で定期的なチャレンジの場、意見表出と集約の場、国際交流の場。
- 交流相談の場として被支援のハードルを下げることもある。
- 高校とのコラボの可能性を見た。授業での居場所体験等での反応は良い。
- 若者から搾取する大人を排除する必要があることが課題。

④.多世代交流食堂みーる堂

・いわゆる子ども食堂の開催により、居場所を地域へ普及啓発し、世代間交流や異文化交流も促す。

・地域課題を感じ、考えるきっかけにする。

・支援ニーズ等を掴んだ場合には、専門機関等の紹介も行う。

④.多世代交流食堂みーる堂

○毎月第３土曜に開催
　１３時～１４時：スタッフのみで準備
　１４時～１７時：ボラ、若者と準備
　１７時～１９時：みーる堂OPEN
　１９時～２０時：ボラ、若者と片付け

○食材…個人寄付、生協寄付、購入
○子ども・若者無料、大人３００円

去年作った暖簾

グループホームの高齢者の力も借りて。
高齢者施設との連携により、みーる堂としえは下準備を事前にしてもらえ、高齢者にとっては生活レクや役立ち感、施設としえは社会貢献、相互に食品ロスの削減等メリットあり。

教え合いながらみんなで調理

生協しまねからの寄付が継続的に

自分で食べ物を選ぶ楽しさがある

学校給食のような流れ

遊ぶのは食べる前？食べた後？

カブラもあるんです。見守るお兄さん。

フランスから来た国際ボランティアが作ったクレープ等、世界の料理が食べられる回もある。

高校生が配膳サポートの日も

自治会の方々も増えてきました。

いくら騒いでも怒られない

遊び方は自由ですよね

リレーで片付け、見守る保護者

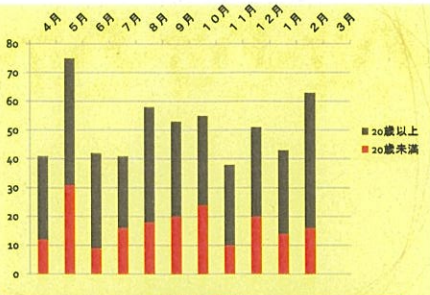
大人の遊び心に乗っかる子どもたち

スポ少帰り、帰宅時は付き添い

他の研修会等とのコラボにチャレンジ

片付けまでキッチリ

常連の要望によりストーブガードを購入。
これで子どもたちも保護者も安心！！



月別参加者数。
予測は難しいが、継続して傾向やニーズを探りたい。

④.多世代交流食堂みーる堂

- チラシ配りの効果あり。特に近隣２自治会と子ども会。（１１回開催で平均５１人参加）
- 子ども会のイベント日に開催して告知もすると参加者が多い。（５月は７５人参加）
- 日時を固定してもチラシを配らないと参加者が減る。（１１月は３８人参加）
- 予算に余裕のある今年度中にストーブガードを購入できた。

④.多世代交流食堂みーる堂

- 生協からの毎月の寄付、個人からの寄付の増加。（本事業でチラシ作成）
- スタッフとして若者の成長という側面。
  ⇒メニューや流れを大きく変えず継続。
  ⇒若者が欠かせない戦力となってきた。
- 高校生とのつながり。
  ⇒ボランティアしたい、子どもと関わりたい、国際交流したい等のニーズ
- 地球食堂（多文化食堂）への発展が課題。

Ⅲ.地域課題を解決すると…

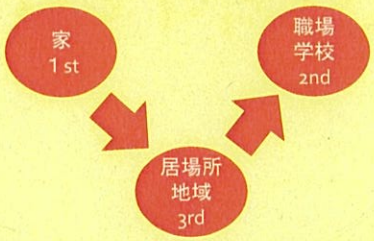
事業を継続し地域に居場所ができると①

- 地域住民同士（特に若者と大人）の相互理解と信頼関係の構築
- 若者を中心とした価値観の多様化と予防支援、早期支援。
- 多文化・多世代理解と地域づくりへの若者・住民参画

事業を継続し地域に居場所ができると②

- 「信頼貯金」が貯まる
- 様々なニーズが把握できる
- スティグマが生じにくい
- 文化のシャワーを浴びる
- 文化資本から社会関係資本へ
- 役割のシャッフルが起こる

事業を継続し地域に居場所ができると③



１⇒３⇒２モデルの強み

Ⅳ.その先には…

事業を継続し地域に居場所が馴染むと

- 多様なことが当たり前の地域
- 居場所視点からのまちづくり
- 当事者が参画する地域
- 自死対策、生き心地の良い地域
- 学校内居場所作り（訪問予防支援）
- 学校プラットフォーム化

ご清聴ありがとうございました。ヽ(´▽`)/